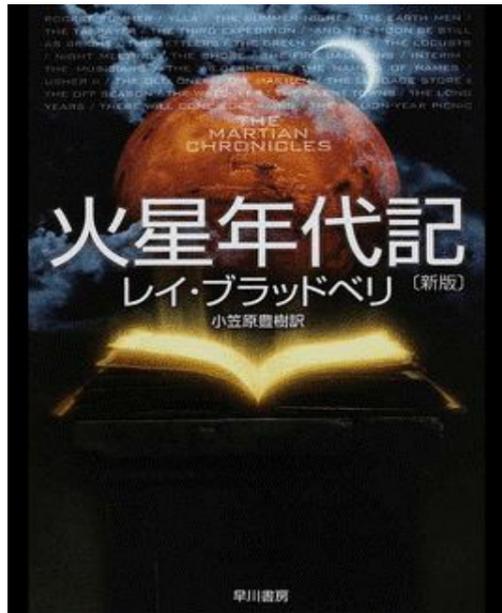


夏休みが始まります！
夜更かして深夜アニメをリアルタイムでもみてOK！
ちょっと遠出して聖地巡礼するのもOK！
自分の「萌え」に思う存分時間を使いましょう！

図書館司書の「この1冊」



『火星年代記』

レイ・ブラッドベリ／著
小笠原豊樹／訳
早川書房

◆ おすすめコメント ◆

火星への探検が始まったのは2030年1月。そして「火星」が新たに火星を支配下に置くのが2057年10月。その27年10か月の間に火星に起きた出来事を、日付順に記録した年代記(クロニクル)という形のSF小説です。

SFという言葉から想像する「カタカナ多い！」「なんやワケわからん理論語る！」「アタマよさげ！」という感じではまったくなくて、優しい言葉で綴られる火星と火星人と地球人のあれこれ、とても抒情的で、まるで詩か童話のよう。家族を亡くした地球人と、彼に寄り添ってくれる火星人の優しさを描いた「長の年月」のラストシーンの美しさには胸が詰まります。たった一人取り残され、唯一電話が通じた相手(若い女性！)と感激の対面を果たした若い男性の悲喜劇「沈黙の町」は思わず笑いが。

短いお話でわずか1ページ半。簡単に読めますが、ゆっくりと味わって欲しい本です。

<千>

♡♡♡萌え♡♡♡

『犬はどこ？』 林 丈二／著 講談社文庫

「犬萌え♡」な人にはたまらないこの1冊。世界中の街角の犬たちと、かれらにまつわるエピソードを紹介したフォトエッセイです。

最後の銀ブラ犬、胡麻塩犬、猫の昼寝番犬、見返り犬、お立ち台の犬、ニンジン犬、人のいい犬、高所犬、店番犬、古絵葉書の犬... 135匹の犬たちが登場します。一見、どこにいるのか判らない風景写真にも、犬がこっそり隠れていて、それを探すのも『ウォーリーをさがせ！』みたいで楽しい♡

表紙のこのワンコは、望遠レンズで撮影したにも関わらず、視線を感じてくるりと振り向いたのだとか。(飼い主さんは気づいてないのに!)。さすが番犬！モエ～！



『工場萌え』

石井哲／写真
大山顕／文
東京書籍

「工場ってこんなにかっこいいものだったのか！」と思わず目からうるこの工場写真集+工場鑑賞ガイドの本です。無骨でありながら繊細な工場風景、特にライトアップされた夜の工場の写真は意外なほどの美しさです。親しみやすく、なおかつ熱い解説も楽しめます。普段の生活においてあまり好き嫌いで語られることのない工場という存在。この本を読むと、今まで気づけなかった新たな「萌え」に出会えるかもしれませぬ。

『走れメロス』や『人間失格』などの文学作品で有名な太宰治の入門者向けガイドブック。太宰治ってどんな人？写真で見るルックス考、などなどを太宰治に「萌え」している人々が熱く語ります。文学って難しそう.....という人でも少しずつ太宰作品に親しめる名言集もあり、さらに「すぐできる太宰ごっこ」であなたも今日から太宰治！？巻末には関連本の一覧も載っていますので、あなたも気になった作品は是非手にとって太宰治に「萌え」してみませんか。

『太宰萌え 入門者のための文学ガイドブック』

岡崎 武志／監修
毎日新聞社



『りぼぐら!』 西尾維新／著 講談社



小説集ですが、一番最初に「ルール」が載っています。ルール？それは、ひらがな46字のうち、使えない文字10文字を決めて、その文字を使わずに小説を書く、という作家側のルール。しかも使えない文字は増えていって、最終的には23文字のみで書かれた小説が。そんな、書けるん？...書けちゃうんですね、西尾維新には。しかも面白い！
「文字萌え」というか「物語萌え」の面目躍如なこの1冊。「文字を封じるたびに、物語は生まれ変わる」と豪語する著者が、言葉の持つ無限の可能性に迫ります。人気マンガ家たちによる魅力的な挿絵にもご注目。

京都市左京図書館

住所 〒606-8103 京都市左京区高野西開町5

電話番号 075-722-4032

開館時間 平日 午前9時30分～午後7時30分

土曜日・日曜日・祝日 午前9時30分～午後5時

休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の時はその翌平日) 年末・年始(12月29日～1月4日)

京都市岩倉図書館

住所 〒606-0013 京都市左京区岩倉下在地町16

電話番号 075-702-8510

開館時間 月曜・木曜:午前9時30分～午後7時

水曜・金曜・土曜・日曜・祝日:午前9時30分～午後5時